

ひがしかわ

2026

1月

誰もが笑顔で過ごせるまちづくりを目指します！

社協だより

令和8年1月1日発行

No.161

高齢者いきいきセンター 楽しく!元気に!いきいきと!

運動



リズムに合わせた運動「リズムステップ」!笑顔がこぼれる!

いきいきメンバー募集中!



レクリエーション



必死に足を動かしてます!

調理実習



卵の焼き加減最高!

外出行事



ご当地の美味しい食事!

勝負事は真剣!



さすがの手さばき!



作品作り



ペットボトルでキーホルダーづくり



家で食べれないもの食べよ!



いつまでも、「心」と「体」が健康でいられるよう「運動」「レクリエーション」「外出行事」など、いろいろな活動に取り組んでいます!
まずは、体験からしてみませんか?
みなさまの参加お待ちしております!

発行: 東川町社会福祉協議会

〒071-1423 上川郡東川町東町2-12-10 tel 0166-82-7505 fax 0166-82-7301

ホーム
ページ
QRコード



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分を活用しています





新年のご挨拶

東川町社会福祉協議会 会長 柏 原定 和

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、本協議会の運営ならびに事業活動に対しまして、ご理解とご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。

さて、近年の社会情勢や度重なる自然災害などにより、人と人とのつながりや地域社会での支え合いという「絆」の大切さが再認識されています。そのことは同時に、地域で住民相互の支え合いの仕組みづくりを進め、様々な地域の福祉課題の解決に向けて取り組みを進めていく社会福祉協議会の役割や活動が、これまで以上に期待されていることでもあると考えます。

本協議会では、従来の事業に加えて今年度より、介護予防として参加者全員でプログラムを考え、健康づくりを行う新たな居場所として「そらいろベース」を開設しました。訪問介護・居宅支援事業等も含めてそれぞれの事業を通して、お互いの顔が見える、安心安全な地域社会の実現に更に取り組んでまいります。

本年も、だれもが住み慣れたところで安心して暮らすことのできる地域づくりと東川町の福祉向上のために、役職員一同さらなる努力を続けてまいりますので、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

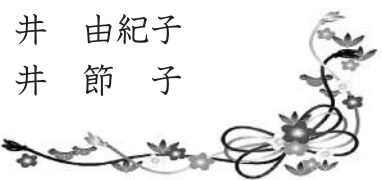
結びに、本年が穏やかな年となることを願い、年頭のご挨拶とさせていただきます。

賀 正



副 会 長	竹 内 一 馬
副 会 長	大 友 春 江
常 務 理 事	野 澤 秀 夫
理 事	佐々木 英 樹
理 事	真 岩 由美子

理 事	山 下 智 秋
理 事	中 田 秀 子
理 事	鈴 木 真知子
監 事	石 井 由紀子
監 事	福 井 節 子



第44回 東川町社会福祉大会を開催しました

◇式典と福祉作文の発表・記念講演 田原 太志氏◇



祝辞を述べる柏原社協会長



祝辞を述べる菊地町長



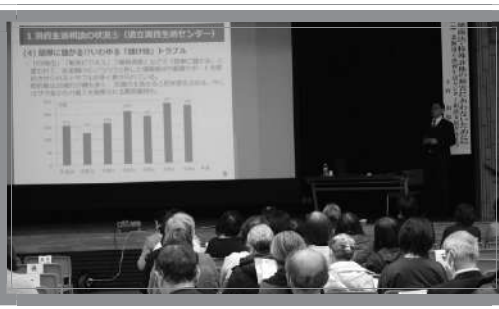
祝辞を述べる能登議長

11月8日（土）東川町農村環境改善センター大ホールにおいて、第44回東川町社会福祉大会を開催しました。

誰もが住み慣れた地域で安心して、心豊かに暮らすことができる福祉社会の確立、次世代を担う子どもたちの健全な生活環境の整備はみんなの願いです。本大会は、この願いの実現に向け社会福祉の関係者が集まり決意を新たに、多年にわたり社会福祉事業の発展に功績のあった方や団体等を表彰し感謝の意を表する機会として開催しています。



福祉作文を発表してくれた児童、生徒、学生の皆さん



「悪質商法・特殊詐欺の被害にあわないために」と題して講演いただいた、北海道立消費生活支援センター相談支援グループ田原太志様



【表彰状・感謝状贈呈】

（敬称略）

●東川町社会福祉協議会会長表彰

*表 彰 状

◎社会福祉協議会評議員（10年以上） 馬場 猛

*感 謝 状

◎社会福祉協議会会長（2期4年以上） 永江 竜心

◎社会福祉協議会役員（3期6年以上） 竹内 一馬、大友 春江、山下 智秋、石井 由紀子

●北海道共同募金会会長感謝状

◎募金功労団体 東川町赤十字奉仕団、東川町農業協同組合、東川ライオンズクラブ

●日本赤十字社東川町分区長感謝状

◎奉仕活動功労者 松岡 たみ、宇高 裕子、岡 理恵、寺林 初美、高橋 三幸、
正満 尚美、津谷 千代子

◆◆◆令和7年 東川町社会福祉大会 福祉作文◆◆◆



僕たちにできること

東川小学校 6年
高 橋 至

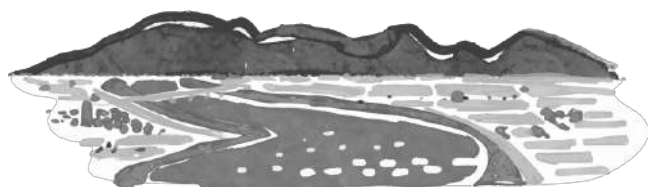
みなさんは「福祉」という言葉の意味をどのように考えていますか。僕は、高齢者や障害者のための活動するという意味があると考えていました。そこで福祉の意味をインターネットで調べてみると「幸せ」「幸福」「生活の安定や充足、また人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとする」という意味があることがわかりました。僕は福祉という言葉の意味を初めて知ることができました。そして福祉の活動もこの意味とリンクしているんだろうなと思い、さらに調べることにしました。

それでは実際に福祉の活動ではどんなことをしているのでしょうか。

実際の福祉の活動ではさまざまな分野の活動があり、「高齢者の支援活動、障害のある方への支援活動」「災害で被災されたかたへの支援活動」「児童に対する福祉」などしているそうです。これらは福祉の意味の「人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとする」という意味にリンクして活動していることがわかります。このように福祉の対象になっている人は高齢者だけではありません。実は僕たちも福祉の対象になっているのです。例えば保育園やいじめの相談ができることや子ども食堂や子育てサロンの取り組みのこれに含まれます。僕は福祉の対象はずっと高齢者や障害者だけだと思っていたので対象が僕たちにもあるということを知って驚きました。

福祉の活動には僕たちも参加できる活動があります。一人で行うことができる福祉の活動は、「書き損じはがき」「使用済み切手」「古本」「寄付つき商品」などを寄付する、「清掃活動」「フードバンク活動」に参加することです。友達とできる福祉の活動には「作品を作り福祉施設などに寄贈する」「ごみ拾い・清掃活動に参加する」「物品の寄付をする」などがあります。これらの活動は無理のない範囲で実施することが重要だと思います。また、このような福祉の活動には、人権という言葉が結びついています。福祉と人権は、個人の尊厳を守り、自立した生活を支援するという共通の理念に基づいています。なので福祉の活動では暴力や無視、嫌がらせをしないということが大事なのです。これらのことは、学校生活の中でも気をつけなければならないことなので、すぐに取り組みたいと思います。僕は、今まで福祉の活動に参加する機会がなかったけど、これからは友達と一緒に参加できる福祉の活動をやってみたいと考えています。

今回のことを通して、福祉というのは、みんなで協力して全ての人々が幸せと感じられるような生活を送るための活動をするんだなと思いました。一人や友達とできる福祉の活動もあったから、友達も誘ってみんなで福祉の活動をして、この活動が社会全体に広がり、社会全体で協力して人々が幸せに生活することができる社会になると、いいなと思いました。



高齢者体験をしてみても

東川第一小学校 6年
千 葉 裕 翔

私は、学校で高齢者体験をしました。特別なゴーグルをつけて視界を狭くしたり、イヤーマフで音を聞こえにくくしたり、手首や足首に重りをつけて体を動かしにくくしたりすることで、高齢者の方の気持ちを体で感じることでできる学習です。

実際に体験してみると、普段の生活で何気なく行っていることが、思った以上に難しく感じました。特に階段を降りるときは、足もとがよく見えず、少しの段差でも怖く感じました。いつもは早歩きでも降りることのできる階段ですが、自然と歩くスピードも遅くなり、「転んでしまうかもしれない、落ちてしまったらどうしよう」という不安と恐怖感が常にありました。また、イヤーマフをして耳が聞こえにくい状態では、いつもの声よりも小さく聞こえて、何回も聞き返してしまいました。話しかけられてもすぐに反応できず、会話をスムーズにできないことがとてももどかしかったです。耳が聞こえにくいことで、周りの状況を判断するのが難しいというのに、人とのつながり感じにくくなることもあるということがわかりました。

足に重りをつけたときは、思うように歩けず少し歩いただけでも疲れてしまいました。そんな中、友達に助けてもらおうと安心感が生まれ、さっきまで感じていた不安や恐怖感がなくなり、気持ち軽くなりました。

この体験を通して、「支え合う」ということの大切さを学びました。困っている人に手を差し伸べたり、優しく声をかけたりすることは小さな行動かもしれないし、勇気のいる行動かもしれませんが、でもその行動が、相手にとってはとても嬉しく、大きな支えになるものだと思います。

そしてこの学習から、何気ない日常生活を不自由なく送れていることがどんなに恵まれていることなのかにも気付かされました。これからは、自分も周りの人に思いやりをもち、困っている人に自然と手を差し伸べられるようになりたいと思いました。たくさんの人が思いやりの心を大切にし、お互いに支え合い、誰もが幸せに暮らすことのできる社会にしていきたいです。



「ボランティア」から 伝わるもの

東川第二小学校 6年
古 川 和

僕の姉は高校生のとき、休みの日のほとんどをボランティア活動に使っていました。子ども向けのイベントの企画や運営をするなど、イベントに参加する子どもたちの活動をサポートするボランティアです。いつも楽しそうに帰ってくる姉を見て、「なぜお金ももらえないのに、そこまで頑張れるのだろう?」と疑問に思っていました。

「ボランティア」と聞くと、ごみ拾いや募金活動など、みんなの生活をよくするための活動をイメージします。しかし、姉の行っているボランティアは、「子ども福祉」という、子どもたちの成長を支え、安心していられる場所をつくるための支援です。姉は、他のスタッフやメンバーと話し合いながら、子どもたちが好きな遊びや、やってみたいこと、楽しく安心して過ごせるイベント

になるように工夫し、活動しています。

姉は小学生のときに参加したイベントで、その時のボランティアスタッフにあこがれ、高校に入ってから本格的にボランティアを始めました。そして高校三年間の努力が認められ、法人ボランティア表彰を受けました。

イベントの運営では、どんな子どもたちも参加しやすく、楽しく学ぶことのできる内容を考え、安全に活動できるよう、一生懸命考えているそうです。こうした活動は、ボランティアスタッフも参加した子どもたちも、新しい経験や発見を増やすことにつながっています。

姉話を聞いて、ぼくも将来、ボランティア活動を通して多くの人を楽しませたいと強く思うようになりました。自分で考えた企画をたくさんの人に体験してもらいたいです。ぼくは小さいころから、いろいろな遊びやものづくりを経験してきました。遊びやものづくりをあまり知らない子どもたちにも、少しでも多く知ってほしいと思います。それが、子どもたちの成長につながり、新しい発見や喜びが生まれると思うからです。

「福祉」とは、「みんなが幸せに、安心して暮らせるように助け合うこと」です。困っている人がいたら助けたり、誰もが安心して生活できる社会を作るためにみんなで力を合わせて、助け合い、守り合うことで、やさしい社会をめざせると思います。また、子どもたちが安心して遊んだり、学んだりできる環境を作ることがとても大切です。

例えば、いろんな理由があり外で遊ぶことが難しい子どもがいるかもしれません。そういう子も、ボランティアが考えたイベントに参加して新しい友達と遊んだり、いろんな体験をすることで、心も体も元気に育っていきます。みんなが同じように楽しい経験をするので、互いにより成長につながると思います。

また、福祉は「思いやり」や「助け合い」の気持ちを育てることであります。自分が誰かを助けること、または誰かに助けられることによって、みんなが安心して生活できる社会ができるとぼくは思います。ボランティア活動は、その思いやりの気持ちを育てるための大切な場所でもあります。

ぼくの学校では、上級生が下級生と関わるのがよくあります。ぼくも、1年生や2年生に学校のルールやみんなで気持ちよく生活するために大切なことを教えています。例えば、授業中のマナーや休み時間の過ごし方、廊下やトイレの使い方などです。学校に入ったばかりの下級生が安心して過ごせるよう、ぼくたちがサポートすることも「ボランティア」だと思います。

また、ぼくたち上級生は、みんなが協力して活動できるようにリーダー役をすることもあります。例えば、委員会で委員長をしたり、給食班のリーダーとして、給食のマナーなどを教えたりします。こうした経験は、学校だけでなく将来、社会生活でも役立つと感じています。

学校の中でも、ボランティアの気持ちをもって行動することはとても大切です。ルールを守ったり、自分から進んで人を助けたりすることで、その、助けを受けた人たちが、また人を助け、周りの人もどんどん安心して過ごせるようになっていきます。ぼくはこの「思いやりの繰り返し」をよりたくさんの人たちが知り、理解して行動に励むと、学校や地域をもっとよくすることにつながると信じています。

姉は今もボランティアを続けており、今年で四年目です。姉の活動を見ていると、ボランティアはただ手伝うだけではなく、人と人をつなぐ大切な役割があることがわかります。ぼくもこれから、自分にできることを見つけて、誰かの役に立つ活動をしていきたいと思っています。



あいさつで 社会を明るくする

東川第三小学校 6年

一井 秋穂

私は、昔からあいさつをするのがはずかしく、あまり得意ではありませんでした。もしあいさつできたとしても、あまりしっかりとできたことは少なかったです。ですが、今はだいぶあいさつをするのが得意になりました。朝、学校に行った時、地域の人に会った時。そんな時に、

「こんにちは」と言うことが上手くなりました。ただあいさつするだけでなく、はっきりと、相手にちょうどいい言い方で。でも、あいさつをすると、自分も気持ちよく、きっと相手も笑顔になっていると思います。簡単な一言ですが、それをするだけで、社会は少しでも明るくなっていくと私は信じています。

皆さんも日ごろあいさつをしていますか？

あいさつをするのはむずかしいかもしれません。しかし、決してあいさつすることははずかしいことではありません。

「あいさつをすると社会が明るくなる」

そう考えるとやりがいを感じたりもします。日ごろからあいさつをすれば、信頼関係や仲も深まるかもしれません。もしかすると、相手からの印象もあいさつするかしないかで変わってくると思います。私があいさつを得意になったきっかけがあります。

学校では、号令などであいさつをすることがあるでしょう。また、向こうからあいさつをされると、自分もあいさつを返します。そういった小さな積み重ねが自分をつき動かすきっかけになっているのだと思います。

また、自分があいさつをしないと、相手もあまりいい気持ちにはならないでしょう。あいさつをするのはだれにとっても同じです。

ほぼ当たり前のことだと私は思います。何事も通じ合うにはあいさつが必要なのです。だれにでもあいさつはしたほうが良いのです。あいさつはコミュニケーションの一つです。人と人とつながり合うにはあいさつが必須になってきます。皆さんも、何気ない会話で、「おはよう」や、「おやすみ」と言っていますよね？それと同じことです。

いつもの会話でポロっと出た何気ない言葉にあいさつがあるかもしれません。簡単にあいさつを交わすだけで相手も自然と笑顔になっているでしょう。あいさつをすれば、少しずつ社会は明るくなり、やがて世界を照らします。

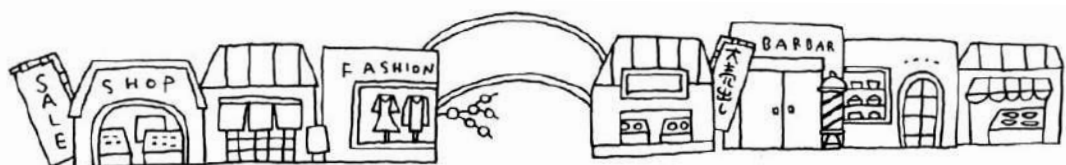
あいさつは太陽です。いつか、世界を照らし、良い社会を作る。そんな良い行動だと思います。

学校では、「あいさつ日本一」を目指しています。それほど大事なことなのです。

「なぜあいさつをするのか」そう思ったこともあるかもしれませんが。それはなぜか。明確な理由はありませんが、みんなを笑顔に、良い気持ちにする。という点ではとても良く、すばらしいことです。皆さんも少しづつでいいです。あいさつにチャレンジしてみませんか？

「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」その言葉で良く明るい世界、社会ができるように、努力していきましょう！

必ずそれは実を結びます。





誰もが暮らしやすい世の中

東川中学校 2年
北 島 政 宗

誰もが暮らしやすい世の中にはできないのだろうか。

僕たちは一人一人に違った考え方、性格、個性があり、誰一人として同じ人はいない。そして、今は多様性の時代と呼ばれる程、互いの個性を尊重し合うことが大切であり、それが当たり前になっている。そう、みんなと違うことは悪いこと、恥ずかしいことではないことは誰もが知っている当たり前のことだ。

僕が小学生のとき、会話をしていると、話題がいつも見ているアニメのことになった。僕は当時、妖怪ウォッチというアニメを見ていて、それを友達に話してみると、「まだそんなの見てるの」「みんなもう見てないよ」と馬鹿にされてしまった。みんなと見ているものが違うだけで馬鹿にされ、恥ずかしい思いをしてしまった。これは本来あってはならないことだが、実際にそういうことはあるのだ。だが、そんなみんなと違って人のことも認めることで誰もが暮らしやすい世の中になるのではないかと私は考える。

その馬鹿にしてきた人たちだって、多様性の考え方を理解しているはずだ。それでも、このようなことがおきてしまうのは、「みんな」と個人を比べてしまっているからではないだろうか。一人一人が違うことは当たり前なのだが、みんなと比べたときにみんなよりも大きく違っている人はおかしいと思われて馬鹿にされたり、人に接してもらいづらくなってしまうのだ。そんなことをしてしまうのはなぜだろうか。原因は僕たちがみんなというものに縛られているところにある。

例えば、誰でも体験したことがあると思うが、授業で自習をしているとき、一人がしゃべりだすと、段々しゃべっている人が増え、自習をしている人の方が少なくなっていたことがあった。みんながやっている、だめだとわかっていても自然と安心して大丈夫と感じてしまう。

このように、大人数や多数派のやっていることは、例えまちがっていても正しく、少人数や少数派のやっていることは例え正しくても、多数派に埋もれてしまい、認められなかったり、逆にまちがっているかのように思われてしまう。

これは日本社会全体にも当てはめることができる。身近なものでいうと、左ききだ。日本人に左ききは10パーセントしかおらず、売られているはさみなどの左きき用と右きき用があるものはほとんど左きき用が売っていない。また、体育の授業のとき、左きき用のグローブが五個しかなく、左ききの人も何人かが、右きき用を使っていた。書道や自動販売機なども右ききの人は使いやすいように作られている。

他にも、同性結婚が未だに認められないことや、病院の診療や看板などの多くが外国語に対応できていないことなど、多数派のみが受け入れられる不平等な世の中に感じてしまう。

今、日本では多数派が優先され、少数派の人たちは不便な生活をよぎなくされている。「多様性の時代」などと呼ばれているが、実際は、多数派の人たちが尊重される不平等な世の中で、少数派の人はみんなにあわせなければならないのだ。

大勢の人が暮らしやすい世の中を作るのはもちろん大事だが、それは少数派の人を無視していい理由にはならない。そのため、僕はたくさんの声に耳を傾け、尊重することを大切にしていきたい。誰もが暮らしやすい世の中を目指して。



「私がボランティアから学んだこと」

東川高等学校 2年
吉 田 優 空

私がボランティア部に入部したきっかけは、「誰かの役に立てる活動をしたい」と思ったからです。茶道部との兼部で活動しています。

茶道部では「礼儀作法とお客さまへのおもてなしの心を身に付けられること」、ボランティア部では「地域の方・社会のためにお役に立てること」が活動の目標です。

私は、人のために何かをすることが苦ではありません。「誰かを思って手を動かし、喜んでいただけること」、この点が二つの部活動に共通していると気づきました。

東川高校に入学してボランティア部に入部したときは、同じ一年生が少なくて少し不安でした。しかし、ミーティングでも活動のときも先輩方が笑顔でやり方を教えてくださいました。活動先の方も励ましてくださることも多く、不安な気持ちがほぐれて楽しく活動することができました。

印象に残っている活動は、昨年十月の「あしなが育英会の街頭募金活動」です。その日は風が強く雨が降る寒い日でした。募金を呼びかけようにも、旭川駅前を歩く皆さんは足早に建物の中に入っていき、足を止めてくださる方はあまりいませんでした。

私は人前で話すことが苦手で、事務局の方の説明を聞いてもどう募金を呼びかけてよいか不安でした。先に2年生の先輩方が大きな声でお手本を見せてくださいました。「私もやらなければ」と勇気を出して大きな声で呼びかけ、チラシを配りました。

衆議院選挙が翌週に控えていたため、すぐ近くで候補の方が選挙カーから街頭演説をしていました。マイクとスピーカーを使った大きな声で、私たちの呼びかけの声はかき消されてしまいそうでした。しかし、「世のため人のために頑張りたいのは候補の人も私たちも同じ！ 負けないぞ！」と奮い立ち、さらに大きく声を出しました。

寒くはありましたが、ご寄付くださる方々から「がんばってね」「おつかれさま」と励ましていただき、やり切ることができました。「勇気を出して自分から動くことで、誰かのために役立てること」を学び、前向きに活動できるようになりました。

東川町内の活動では、永楽寺さんで行われている「ルンルン食堂」に私は必ず参加するようにしています。十月の食堂だけ、学校の見学旅行と重なったため、参加できず残念でした。

こちらでは、毎回およそ百二十食のランチの調理と盛り付けのお手伝い、食事会場の設営と片付けをさせていただいています。衛生を守りながら、ごはんとおかず、フルーツを同じ量・均等に詰め、提供の時間に間に合わせる事が重要です。

ご住職の永江さんには『「ルンルン食堂」は、子どもだけではなく、赤ちゃんからお年寄りまでの「地域の食堂」であること』、「永楽寺さんの宗派である、浄土真宗本願寺派さんからの助成金と、地域の方々からのご寄付の食材で運営されている」とうかがいました。

地域の方にお食事を届ける直前の作業をやらせていただくことがありがたく、心を込めて取り組んでいます。

作業の上でわからないことは、ご住職さんと、調理を担当されるボランティアの方にすぐに質問して、ていねいに大切に食材を扱うことを心がけています。

ルンルン食堂の会食の時間には、ご家族連れの子どもさんと遊んだり、食器の後片付けをお手伝いしたりして、親御さんにゆっくりお食事をしていただくことにも気を付けています。

現代の家庭の食卓は、社会とまっすぐにつながっています。「家族には質のよい物を食べさせてあげたいけど、お米も野菜も、食べ物の値段はどんどん上がっていく」

「栄養のバランスの取れた、手をかけた料理を作りたくても、毎日時間をかけることは難しい。」そして、家族の料理を作っているのは、実際には、いまでも、ほとんどが女性・お母さんです。

「毎日の子育てと家事と仕事をがんばっていらっしゃる親御さんに、少しの時間でも安心して、ゆっくり食事をとっていただきたい」私たちは、そんな思いでいます。

農業史を研究している藤原辰史氏が、「家族の絆組みを超えて、ゆるやかに人とつながりごはんを食べること」を、「縁食(えんしょく)」と表現されていました。

私は、ルンルン食堂によく来てくれる三歳の男の子と仲良くなりました。元気においしそうにご飯をほおぼる姿に心が温まります。ルンルン食堂に来た方が、明るい笑顔になって帰られるとき、私も温かい気持ちになります。ボランティアの私たちも、同じ料理＝「同じ釜の飯」をいただいています。

「手を動かして食べ物を作り、よそい、提供し、いっしょに食べることで心がつながり、人との縁が結ばれていく」ことを、心から嬉しく、ありがたいと感じています。

私は、一年から生徒会活動もしています。学校行事の運営とボランティア活動を続けるうちに、少しずつ自信が持てるようになりました。「東川高校で、地域のためにできることをもっと探したい」と考え、今年の後期に生徒会長に立候補して、信任していただきました。

毎朝行っている挨拶運動では、社会福祉協議会さんのご協力をいただき、赤い羽根共同募金の呼びかけを同時に行うことを後期から始めました。いまは、「あしなが学生募金を校内の活動で行えないか」と考えています。

生徒と東川町、地域の方に喜ばれ、縁を結び、社会のお役に立てる活動を、「全校生徒の生徒会」で今後も考え、取り組んでいきたいです。

「誰かのために考えて、手を動かすこと」は、私の生活のテーマ、人生の目標になっています。私の将来の目標は、中学校の教員になることです。私がこれまで教わった先生方にさせていただいたように「生徒に親身に寄り添い、将来のためにともに考え、働ける先生」になりたいです。「人のために手を動かし、働くことで、自分も成長させてくれる」と実感しています。

今年、ボランティア部には中学校の後輩も二人入部してくれました。今回の永楽寺さんのルンルン食堂は今月の三十日だそうです。期末テストが終わっているので、絶対に参加します。

残された高校生活で、仲間と力を合わせて協力し、先生方と地域の皆様に教えていただきながら、同時にご恩返しもしていきながら、精いっぱい、学んで参りたいと考えています。



東川町で学んだ 福祉の心と私の決意

東川国際文化福祉専門学校 介護福祉科2年

高橋 愛里

本日は、東川町社会福祉大会に福祉作文の発表者としての機会を与えていただきありがとうございます。

私は東川高等学校に通っていました。そして現在は、東川国際文化福祉専門学校の介護福祉科に通い介護福祉士を目指して日々学んでいます。

まず、私がなぜ東川高等学校に進学し介護福祉士を目指す事になったのかをお話したいと思います。中学生の時、体調を崩して学校に行けなかった時期がありました。そのため、高校を選ぶときに「同じ中学校から行く人が少ないのではないか」という安直な理由で東川高等学校に入学しました。入学の動機こそ安直な理由でしたが、高校生活3年間はとても楽しく充実した学校生活を送ることができました。

入学してから東川町について知るという授業があり、その中

で東川町が自然豊かであるということを知ることができました。春には水が田園に張られ、空や周りの風景が鏡のように映り、秋の畑は黄金色になり、収穫間近になるとキラキラと輝きます。そんな風景は、東川町ならではの魅力的な風景だと感じました。

そして、私が福祉の道を志したきっかけは、東川高等学校でのガイドヘルパーの授業でした。当時の私は、福祉や介護の道は考えたことがなく、将来のために何か役に立てばいいなと思い、授業に臨みました。その授業では、体の仕組みや車いすを操作する上での注意点、コミュニケーションの方法、東川町で行われている福祉について詳しく学びました。そのようなきっかけを得た東川町で、介護について学び介護福祉士の仕事に就きたいと思い、東川国際文化福祉専門学校への入学を決めました。

次に、東川国際文化福祉専門学校での学びとこれからの決意について話したいと思います。

私の所属する介護福祉科は、留学生と主に学ぶことが一つの魅力だと感じています。私のクラスには、中国、韓国、台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、ネパール、ベトナム、カンボジア、日本と十一か国四十三名が在籍しています。

留学生と一緒に福祉を学ぶということは、幅広い多様性を理解するだけでなく、福祉の考え方をより深めることにも通じると思います。

例えば、言葉が通じにくい留学生と学ぶ時、相手の表情やしぐさから気持ちを汲み取ろうと努力することがあります。これは介護においても同じで、言葉だけでなく表情や雰囲気から利用者さんの気持ちをくみ取り、寄り添う力を身に着けることができると思います。福祉の知識だけでなく、考え方や文化の違いを理解しあい、互いに刺激しあうことで、視野が広がりより充実した学びができていくことを実感しています。

また、三回あった福祉施設での実習は私の福祉観に大きな影響を与えてくれました。三回目の実習は、二年生の六月から一か月間の実習は利用者さんがその人らしく幸せになれるケアプランを考える実習でした。部分責任実習ということもあり利用者さんの生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報をアセスメントしながら、実習を行いました。ケアプランを作成していくなかで、職員さんから「ケアプランはただの紙じゃなくて利用者さんの暮らしを守るための設計図みたいなものだよ」と教えていただきました。ケアプランは単なる支援の指示書ではなく利用者さんの希望や、可能性を形にしていくものであり、そこには「できることを増やす喜び」や「自分らしく過ごせる穏やかな時間」が込められていると思います。しかし、人の幸せを考えることは難しく、実習中は不安な気持ちが募っていくこともありました。そんなときも職員さんの的確なアドバイスをいただいたことで実習を乗り越えることができました。実習中は普通の学校の授業では学べないコミュニケーションや実践的な生活支援技術も学ぶことができる貴重な時間でした。

この2年間の学びを通し、利用者さんに信頼され、思いやりを持った福祉従事者になりたいと強く思っています。そのため残りの学校生活で専門的な知識と技術を学ぶのと同時に、人の気持ちや状況を感じ取り、思いやりや共感を持って行動できる感性を磨いていきたいと考えています。介護の仕事は決して楽ではありませんが、利用者さんから感謝をして頂くことができ、やりがいがあり人の幸せに直接つながる大切な仕事です。私は、その責任を全うする決意をもち、一人ひとりに寄り添っていける介護福祉士を目指し、頑張っていきたいと思います。高校と専門学校の五年間、東川町で学んだことは、人に寄り添うこと、多様性を認めていく姿勢は、私が目指す介護福祉士になるための大切な核となりました。

この町での経験は私の将来に必ず生きてくれると確信しています。

東川町診療所で診察を受けた時の 医療費分助成事業（薬剤費は対象外）

後期高齢者医療保険1割または2割負担の方で、まだ申請書を提出されていない方はご提出下さい。尚、一度申請書を提出すれば、その後の手続きは不要です。

紙おむつサービス事業

在宅での介護を必要とし、常時紙おむつを必要とする要介護2以上の方に対して1回5,000円分の紙おむつ券を年2回支給しています。

ことしも
ちよこつと

カレンダーリサイクル市 開催します

2026年1月9日(金)～23日(金)10時～15時

場所:東川町社会福祉協議会(そらいろ)

お願い!

不要な2026年のカレンダーや手帳を集めています!
ご提供いただける方は東川町社会福祉協議会までお届けください

集める期間:2026年1月中旬まで

平日8:30～17:00(土日祝日と12/31～1/5はお休み)

お代は全て
「赤い羽根共同募金」に
募金させて
いただきます

－困った時に誰もが「助けて」と言える町に－ 第42回

「因果応報」

夕食中にテレビを見ていると札幌の寺で供物窃盗のニュースが流れていた。

納骨堂の防犯カメラに映った女性に住職が声をかけると「お腹が空いたので食べた」と涙ぐみながら言ったという。

その時、警察には通報せず、その代わりに身分証明になる物を見せてと伝えた。すると女性は車にあると言って出て行き、そのまま車で走り去った。その後、住職は警察に通報、やがて彼女は捕まった。

一方、住職の妻は「お腹が空いた」という女性の言葉を信じて、お菓子を用意していたようだ。

放映後、住職の言葉が私の胸に重くのしかかった。「因果応報、人はその行いによって報いを受ける」と。

近年では、お墓の供物はお参り後に下げるよう求められている。鳥や動物が喰い荒らすのを避けるためだ。その昔、お墓の供物を目当てにお墓を訪れる人がいたという。墓地の供物を当てにしなければならぬ生活は、いかばかりかと思うが、中には墓参者が去るのをじっと遠目で見ていた人がいたようだ。そうやって、あきらかに人の供物を当てにしなければならぬ人も、やはり因果応報と言われるのだろうか。

私は胸につかえた思いを和らげたかった。そこで我が菩提寺のN住職に今回の件で聖職者としての感想を伺った。するとラインには「逮捕を保護と読み替えたらどうでしょう」と。つまり、逃げた様子から警察への通報は、それ以上の罪を重ねさせてはならない配慮という解釈だった。その解釈は私の気持ちを軽くし、あの因果応報という言葉も胸の中で静かに眠りつつあった。

ところで、隣室で菓子を用意していたという住職の妻、因果応報は彼女にどう応えてくれるのだろうか。

ボランティアセンター合同交流会 in美瑛町

ひがしかわ
ボランティアセンターだより
第66号



令和7年11月11日(火) 美瑛町町民センターにて、美瑛町・東神楽町と合同の交流会を開催しました。

「子供に関わるボランティア」をテーマに3町それぞれ活動事例報告をし、東川町からは、東川ルンルン食堂の活動を紹介しました。座談会ではグループに分かれて報告の感想や、やってみたい子供向けボランティアの話などで盛り上がりました。

おいしいお弁当の後は、グループ対抗のカーリンコン大会！初めての方も多かったようでしたが、東神楽町の審判の方にみなさん上手だと褒められました。参加していただいた皆様ありがとうございました！今後とも東川町ボランティアセンターをどうぞよろしくお願いいたします！



あそばん会のお知らせ

子どもから高齢者まで
どなたでも参加できる
あそびの会を毎月開催
しています。

日 程	メインの遊び	その他の遊び
1月	7日(水) 麻雀 9日(金) 百人一首	花札・将棋・囲碁は いつでも ご用意しています。
2月	4日(水) 麻雀 6日(金) 百人一首	
3月	4日(水) 麻雀 6日(金) 百人一首	



百人一首の様子

【時 間】13:00 ~ 16:00 (出入り自由)

【場 所】東川町社会福祉協議会 (共生プラザ そらいろ内)

☎82-7505



令和7年度「1人暮らしの集い」

10月30日、31日の2日間で「高齢者1人暮らしの集い」を開催しました。今年、旭川市博物館を見学し、道の駅あさひかわで買物したあと、アートホテルのレストランでランチバイキングを堪能しました。15階からの景色を眺めながら、心もお腹も満たされて素敵な笑顔がいっぱいでした！

